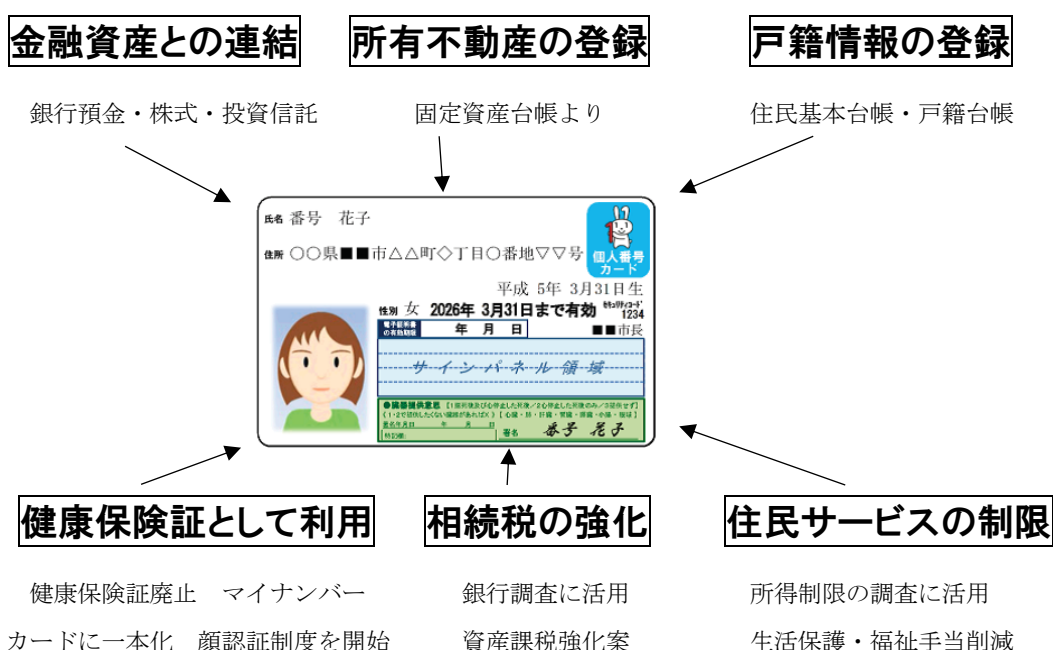


コロナに乗じたカード・銀行口座連結が危険！

共通番号制度を考える会・静岡

もう一度おさらいです。政府が目指すマイナンバーの狙いです。
助成金振込・コンビニ住民票取得などカードでなくても可能。



定額給付金のオンライン給付が遅れていることを逆利用して、金融口座とマイナンバーカードの連結を義務化する法案(最初は口座1口から)が、来期の通常国会で提案されようとしています。コロナ感染症の流行までは、国民間で不人気で16~17%しか作られなかったマイナンバーカードです。国は、国民に付けた生涯不変の番号カードに様々な情報を持たせ、それを国家運営に利用しようとしています。個人情報漏洩の危険性や、国民管理の姿勢は変わっていません。

もし、様々な個人情報が一枚のカードに搭載されたとき、盗難被害にあったり、落としたりしたら取り返しがつきません。そんな時代が来ることを皆さんは、どう思いますか。

私たちは、マイナンバーカードによる国民管理に反対します。
皆さんとともにもう一度原点に戻って考えてみたいと思います。

質問 1、定額給付金のオンライン申請で、役所が混雑しました。次回に対応するため、カードと口座番号をあらかじめ紐付けしておいたほうが良いのではないですか。

回答 1、もともとマイナンバー制度は、行政の効率化を主目的に作られました。給付金振込に対応するシステム設計はされていません。カードの申請率の低さに頭を悩ましていた総務省が、「オンラインのほうが早い」とのうわさに悪乗りしてカード申請を促進させようとし、かえって現場を混乱させたのです。

まだコロナが話題になっていなかった1月17日総務大臣は、カードと預金口座の紐付けの義務化についての検討を始めると記者会見。

政府・与党も野党の一部にも口座紐付けに前向きですが、実は国民の財産把握・金融資産把握が真の狙いなのです。

質問 2、役所窓口ではどのような混乱が生じたのですか。

回答 2、①マイナンバーカードを作ったほうが振込が早いとのうわさが広がった。

②マイナンバーカードと通知カードの違いが市民に浸透していないため、通知カードのコピーで振り込まれると思っていた。

③マイナンバーカード作成時に登録した暗証番号を忘れてしまった。もう一度暗証番号を作るのに役所を訪れる必要が生じた。

④カード内に内蔵された電子データが5年で時効になることが周知されていなかった。更新手続きに役所へ行かなければならなかった。

⑤自宅にパソコン・カード読み取り機またはスマホが必要だった。

このようにマイナンバー制度が国民にほとんど浸透していない事実が明らかになったのです。デジタル化が進み、多様な民間システムが、広がる中、国民一人一人に番号が附番された一枚の官制番号カードで、行政管理の全て(税務署、市町村、健康保険、雇用、年金、社会保障、生活支援)をやることに無理があり、もう時代遅れとなっています。

質問 3、カードの普及率が低い原因は何ですか。

回答 3、①ほとんど役に立たないことです。カードを持っても、たまにしかない住民票のコンビニ申請とか、図書館カードとしての利用とか、マイナポイントでプレミアム商品券(20,000円で25,000円の買い物ができる)とか、わずかの利便性です。

②政府の狙いが透けて見えていることです。カードで個人情報管理されてしまうことへの拒否感です。

マイナンバーカードの作成を義務化し、健康保険証代わりに利用させる動きがあります。財布の中にいつも持ち歩かなければならない時代にさせてはなりません。